

編集後記：気象学会創立125周年であった2007年の4月に、創刊号から2005年までの「天気」を電子化したものをインターネット上 (<http://www.metsoc.jp/tenki/>) で公開しました。さらに2006年以降のものも含めて、月々に出る新しい「天気」も同じホームページで公開しているのは、会員の皆様にはご存じのことと思われる。

この間の上記トップページへの月間アクセス数を見ても、公開直後の2007年4月は1640件でしたが、その後徐々に落ち込み、2007年8月に最低値445件となりました。その後も600件前後を推移していたのですが、2008年4月末にそれまで分散していた「天気」関連のウェブサイトの本ページに統合したところ、アクセス件数は飛躍的に上昇し、翌5月には2680件、最近では4000件を超えるアクセス数となっております。このアクセス件数の変化からも、本ページの周知が進み、ある程度ご支持いただいているものと自負しております。

その一方、ウェブサイトや雑誌の命はその「コンテンツ」にあることは言を待ちません。「天気」の読者を増やし、さらには気象学会を盛り立てていくには、すぐれた論文・短報・解説を会員の皆様に投稿していただき、それを迅速に掲載していくのは勿論のことです。その上で、気象学の裾野を広げるための記事も編集委員会が積極的に集める必要があると思われる。

この観点から2007年に「調査ノート」欄が新設され、昨年より投稿記事が掲載されるようになったのは、「天気」のコンテンツ充実の一助となっているはずで

す。小職はといえば、「天気」の編集作業では「天気の教室」と「気象業務の窓」を担当しております。両欄とも幅広い読者層に対応するためのものであり、誰が読んでも面白く、興味深いものとなるよう心がけております。どちらも基本的には編集委員会からの依頼による原稿ですので、記事を執筆していただけるよう日夜「営業」に励んでおります。執筆にご協力いただいている皆様、今後ともよろしく願います。

なお、基本は依頼原稿ではありませんが、「天気の教室」は投稿原稿も受け付けております。「天気の教室」上の小倉義光先生による人気連載記事「お天気の見方・楽しみ方」も実は小倉先生からの投稿原稿です（小倉先生、いつもありがとうございます）。他の「大家」の皆様も後進育成のためにご投稿をお願いします。また、「気象業務の窓」も気象業務に携わっておられる方の「売り込み」をお待ちしております。提灯記事・楽屋話にならないように注意する必要がありますが、ご自分のお仕事やプロダクトを業界に認知させるにはよい機会ではないかと思えます。我と思わん方、ご一報下さい。

(別所康太郎)